



ぴっぴだより

No.6. 2025. 8. 29

我が家のトマト、いつの間にやら赤くなっていました。

お盆が過ぎると、ほっと一息。我が家の夏が終わったと言っても過言ではありません。

旧中山道小田井宿にある小さなお寺、宝珠院（ほうしゅいん）の寺庭です。

生け花よりもハーブ、香道よりもアロマが好き。お茶は点てて飲むよりも、マグカップでごくごく飲むのが好きです。

「なんとかなる気がする！」と、深く考えずにお寺に入って、かれこれ 18 年目です。よくよく考えていたら、今ここにはいなかったはず(笑)

ぴっぴを卒園した息子（高1）は、7才の時に得度しました。

「度」というのは「渡る」ということを意味し、得度とは「渡るを得る」。仏の教えに出会って彼岸（悟りの世界）に渡る機会を得られたという意味です。悟りを求めて仏道の修行に入ることを「得度」と言います。つまりは、「出家」しました。得度したからすぐに僧侶になれるわけではありません。今のところ、見習い和尚（一休さん？）です。この先、仏教系の大学や専門学校に進学して、本山や寺院での修行があって、僧侶の資格が得られます。

我が家で一番忙しい時期は、お盆です。小学4年生の時からお盆の手伝いをしている息子。お寺の役員さんに連れられて、檀家さんのお宅へ伺い、ローソクに火を灯し、お線香をつけて、お経をお唱えします。その数40軒ほど。ちなみに住職（父）は250軒ほどのお参りです。

2025年夏、息子が言いました。「俺、お盆行かない」

困惑する父と、そんな気がしていた母。

「自分も同じくらいの時、お盆のお参りに行くのが嫌だったから気持ちがよくわかるんだけど…“行かない”っていう選択肢なかったな…。そうか行かないのか…。行かないって決めたのか…」役員さんに断りの連絡をして、ひとりで棚経の準備をする住職でした。

お寺に生まれたから、長男だから、跡取りだから…周りの人はそう思っていて、そんな空気を漂わせてきたのかもしれませんが。「そうならいいのかな…」とも思いますが、別にいいんです。継いでも、継がなくても。寺嫁失格だと思いますが(笑)自分の気持ちのままに、元気で楽

しく過ごしておくれ、こっちはなんとかなるはずだから〜と、母は思っています。

8月15日の朝、起きてきた息子は足袋を履き、衣帯を整え始めました。

「やっぱり（お盆）行く」と。彼の心の内はわかりませんが、急遽、母と息子の2人で檀家さんのお宅を回ることになりました。お経をあげている最中、母は玄関外で待機。今年の夏は暑すぎました。

大きな家にひとり暮らし、90才過ぎのおばあさんのお宅へ伺った時。

チャイムを鳴らしてしばらくすると、出てきました。「誰だっけ？」きょとんとしているおばあさん。

「お寺です。お盆のお経にきました」

「ああ！そうね。ありがと、ありがと、どうぞ〜」招かれて中へ入る息子。

3分後に玄関から顔を出す困り顔の息子。「仏壇がどこにあるかわからない…」

おばあさん「ごめんね〜。あたし、わからなくなっちゃって」なんと！おばあさんご本人も仏壇の場所がわからないとのこと…。母も加わり3人で探すこと数分、いつもおばあさんが眠っているベッドの横に仏壇がありました。

「ごめんね〜。わからなくなっちゃって。あたし、次に何したらいい？」

息子「座ってていいですよ」

「あたし、ばかになっちゃって、ごめんね〜」「あたし、よくわからないの〜。ばかになっちゃったの〜」何度も繰り返すおばあさんに、その都度「大丈夫ですよ」と、息子の声。網戸越しに聞こえてくるその会話が、なんだか温かく、母にとっては、お経と同じくらいありがたく思えたのでした。

そして、俵万智さんの「サラダ記念日」の短歌を思い出しました。

『親は子を 育ててきたと 言うけれど 勝手に赤い 畑のトマト』

息子の成長を感じた夏休み。母も成長しなければ…と、思うのでした。がんばれ、私!!

：茂木加代

庭の恵みを食べよう遊ぼう楽しもう♪ 9月

『誘鳥木』という言葉があるのを知っていますか？ 木々は秋になると色とりどりの美しい木の実をつけますが、それは、その鮮やかな色で鳥を誘い、実を食べてもらうことで種子を散布してもらうのです。その美しさは鳥のみならず、私たち人間も楽しませてくれます。そしてその木にやってくる鳥たちの愛らしい姿に心を和まされます。ぜひ、お庭に美しい実のなる『誘鳥木』を植えてみてはいかがでしょうか♪



クサギとヤマガラ

クサギ(臭木)(日陰を好む)

若葉はお茶や山菜として、根は薬用としても利用します。実は美しい染料として使用でき、美しい空色(あさき色)に染まります



ムラサキシキブ(紫式部)
(日なた、半日陰を好む)

美しい実を
平安時代の紫式部
に例えた

小さな実は
ほんのり甘く、
小鳥が好む

ムラサキシキブ
エナガ

エナガ(柄長)

石の通り、尾が長くふわふわと
綿帽子のような愛らしい鳥
チュルリチュルリと動く

マユミ(檀、真弓)

かわいらしい

桃色の実とともに

葉も優しい

色に紅葉し

山野に自生

するが

庭木にも好まれる

果実は有毒な

ので注意

鳥たちは食べます

コゲラ
マユミ

コゲラ(小さなキツツキ)

15cm程(スズメと同じ)
くらいのキツツキ
「ギーギー」という声
や「キンキン」という声をたず

ガマズミ(英蓬、鎌酸実)
明るい木を好む

秋の果実は
鳥たちの
大好物。

ビタミンCが
豊富でワイン
や美しい
果実酒や
ジャムにも♪

シヨウビタキと
ガマズミ

シヨウビタキ

冬鳥として渡来していたが、
近年は留鳥に

「ヒッヒッ」
「カッパッ」
という
声でなく



ヤマボウシ(山法師)

初夏に白い花を咲かせ、紅葉も楽しめます。
木が青々として美しく、庭木としても人気があります



メジロ

目の周りの
白色部が
スロの由米、
七草のモデルに
「メジロ」、人との
関わりが深い鳥

メジロと
ヤマボウシ

実は
マンゴーの
ような甘さで
生食、果実酒など
利用されます

たはたより

夏野菜の季節、到来！

ひっひの火田の野菜たちが 収穫のときを
迎えています。 インゲン、赤しそ、トマト、きゅうり、わさびなど。
さやかさんによる、子どもたちを 優しく見守り、関わる
感じそのままに、土と触れ合ってる様く子、火田も幸せ
だろうなあ。 そんな火田でとれた 野菜を ランチで
みんなであただけること、嬉しくて、かみしめたいてす。

田んぼは… 8月のはじめに 稲も花が咲き、
穂が実りはじめています。 稲の花、見たことありますか？
と！ ここで 検索しようと思った方いましたら… (いるかな)
まずは どんなかな〜と 想像してみてください。
もう、そのまま こたえあわせなんてせずに、いろんな
“お米の花”を、思い浮かべて 糸冬めてほしいきもち
です。 いつか 実物を みる 機会があるかも
しれないし、ないかもしれない。 すうと 知らないまでも

そんな 田んぼに、 子どもたち 作のかかしが
登場して(このおたよりがでるころには)、田んぼを 采りり
ながら、お米を守ってくれていることでしょう。

かかしたちは 会いに行くのも 楽しみです！ 1はるこ